

「天高く、馬肥ゆ」といわれるこの頃は、なかなか気候のいい時期です。食欲の秋、読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋、と矢継ぎ早に秋の形容詞が思い浮かびます。それだけに、何をしても、し易い、時期なのでしょう。

「文化の日」は1946年に日本国憲法が公布された日であり、国民の祝日法により、祝日となりました。憲法が平和と文化を重視していることから、「文化の日」と定められたとのこと。憲法を無視する安倍政権はこの日をお祝いしているのでしょうか。私たちは、この祝日には、気候も良く、戸外でも、様々な文化活動を幅広くできる日として、喜んでいくところ。けれども文化勲章など、勲章関係の報道が多く、天皇制を思い出させる要素も色濃く、本来の「文化の日」の活動をしているのは、勲章に関係のない庶民たちではないかと、思われています。

さて、「文化とは何か」と問われると、難しく考えがちですが、憲法に則って考えれば、「基本的人権を持って生きること」ということでしょう。自由に考え、表現し、平和に、安全に暮らしていれば、文化的生活を送っているということでしょう。庶民は「文化人」ではなくても、文化をもって生きています。今日は「文化の日」に因んで、文化を色濃く味わっている人たちを紹介しましょう。



鎌倉三曲演奏会がありました。鎌倉生涯学習センター・ホールに、クラブ活動の高校生、鎌倉、横浜南部にあるお教室の老若男女の各グループが、一堂に集いました。古曲から、現代曲まで、幅広く24曲を演奏しました。ホール

にはぎっしりと聴衆が集まり、琴、三絃、尺八の音色を楽しみました。日本独自の個性を持った世界から、新しい音色、表現も生れて来ています。私の先生は大月宗明作曲「梵」を弾かれました。お見事！



照り付ける陽光が和らぎ、快適な釣りシーズンとなりました。夫は勇んで、油壺に出かけました。いつもの場所は満員とのことで、小網代湾の外海に面している崖下の岩場で釣りました。夕方にかけて潮目がよくなり、どんどん釣れだし、夢中になって暗くなるまでキャスティング。逃げられた魚はとて大きかったといつまでも悔しがりましたが、さすがに、釣り終わったら、くたくた、ヘトヘトにな

ったようです。釣果は30cm位のメジナが12匹でした。美味しい南蛮漬けにしました。



神奈川芸術劇場で心踊西華流の会がありました。高校の後輩が名取です。この流派のモットーは「日本舞踊を通して、世界の平和を祈って」踊るとのこと。北海道から九州まで、支部があり、大勢の門下生がいるようです。従来は長唄、清元、常磐津なども舞いますが、氷川きよし、美空ひばりなどの歌謡

曲に合わせても踊ります。マンボのリズムも、シャナリ、シャナリとしたステップになります。踊り手は生き生きとして、楽し気でした。首振り〇〇年、と言われる世界ですが、しなやかな身のこなしで、畳2畳分の空間に、人形のような絵姿を描きます。観客の熱気、応援もなかなかでした。